

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特許公報(B2)

(11) 特許番号

特許第3840720号

(P3840720)

(45) 発行日 平成18年11月1日(2006.11.1)

(24) 登録日 平成18年8月18日(2006.8.18)

(51) Int. Cl.

A 4 7 J 47/16 (2006.01)

F I

A 4 7 J 47/16

P

請求項の数 3 (全 8 頁)

(21) 出願番号	特願平9-2040	(73) 特許権者	000005821
(22) 出願日	平成9年1月9日(1997.1.9)		松下電器産業株式会社
(65) 公開番号	特開平10-192174		大阪府門真市大字門真1006番地
(43) 公開日	平成10年7月28日(1998.7.28)	(74) 代理人	100097445
審査請求日	平成15年12月22日(2003.12.22)		弁理士 岩橋 文雄
		(74) 代理人	100109667
			弁理士 内藤 浩樹
		(74) 代理人	100109151
			弁理士 永野 大介
		(72) 発明者	佐藤 長史
			大阪府門真市大字門真1006番地 松下電器産業株式会社内
		(72) 発明者	采尾 治彦
			大阪府門真市大字門真1006番地 松下電器産業株式会社内

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 包丁収納装置

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項1】

傾斜状の複数の差し込み口を頂面に有する収納本体と、前記収納本体の頂面後部に左右移動可能に設けられた所定高さの係止部材とを具備し、この係止部材の前部には前記複数の差し込み口と対応して複数の凹設部を形成し、かつこれら凹設部は、係止部材が一方へ移動している状態では差し込み口を全開するとともに、凹設内面が差し込み口の傾斜と一致するように傾斜状に部分的に設定されており、さらに係止部材が他方へ移動している状態では、この係止部材の前部が差し込み口の一部を塞ぐように設定した包丁収納装置。

【請求項2】

係止部材の移動を係止するロック機構を設けた請求項1記載の包丁収納装置。

10

【請求項3】

前後方向に形成した差し込み口を頂面の左右方向に複数配設した収納本体と、前記収納本体の左右両端より上方へ突設され、前後方向への長穴状のガイド部をそれぞれ有する突出部と、前記ガイド部にガイドされて前後移動し、前記差し込み口の上方位置と退避位置に操作される線材とからなる包丁収納装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、例えば、キッチンの扉裏面に取りつけて使用する包丁差しに関するものである。

20

## 【 0 0 0 2 】

## 【 従来 の 技 術 】

従来この種の収納装置は、特開平 2 - 1 1 2 2 3 6 号公報や特開平 5 - 4 8 8 4 7 号公報に記載されているものが一般的であった。

## 【 0 0 0 3 】

いずれも、幼児等が誤って包丁を取り出すのを防止することを目的の一つとしたもので、特開平 2 - 1 1 2 2 3 6 号公報に記載の装置は、図 9 に示されているように、包丁差し 5 1 に包丁 5 2 を収納した後、包丁自体を回転させてロックし、容易に抜けないようにして安全性を高めていた。

## 【 0 0 0 4 】

また、特開平 5 - 4 8 8 4 7 号公報に記載の装置では、図 1 0 に示されているように、包丁を収納した後、カバー 5 3 を移動させて包丁 5 2 の上部を覆い隠すように構成して、包丁 5 2 の柄に触れることができなくして安全性を高めていた。

## 【 0 0 0 5 】

## 【 発 明 が 解 決 し よ う と す る 課 題 】

しかしながら、従来の調理器具の収納装置では、包丁 5 2 を回転させてロックする方式の場合は、包丁 5 2 の種類によっては柄 5 2 a と舌片 5 2 b との間に隙間がないために回転できず、収納できない包丁があるという課題を有していた。

## 【 0 0 0 6 】

また、包丁 5 2 を取り出すために元の位置に回転させる時に、回転偏倚させたバネに打ち勝つ大きな力が必要であるという課題をも有していた。

## 【 0 0 0 7 】

一方、カバー 5 3 を移動させて包丁 5 2 の上部全体を覆い隠す方式の場合は、収納装置 5 4 の上部全体をカバー 5 3 で覆い隠す必要があるため、包丁 5 2 を取り出す際のカバー 5 3 のスライド量が大きく取り出しが大変であるという課題を有していた。また、カバー 5 3 の材料も多く必要とするため、コスト高になるという課題も有していた。

## 【 0 0 0 8 】

## 【 課 題 を 解 決 す る た め の 手 段 】

本発明は上記課題を解決するために、傾斜状の複数の差し込み口を頂面に有する収納本体と、前記収納本体の頂面後部に左右移動可能に設けられた所定高さの係止部材とを具備し、この係止部材の前部には前記複数の差し込み口と対応して複数の凹設部を形成し、かつこれら凹設部は、係止部材が一方へ移動している状態では差し込み口を全開するとともに、凹設内面が差し込み口の傾斜と一致するように傾斜状に部分的に設定されており、さらに係止部材が他方へ移動している状態では、この係止部材の前部が差し込み口の一部を塞ぐように設定したものである。

## 【 0 0 0 9 】

上記本発明によれば、いかなる種類の包丁も収納可能である上に、係止部材を少し動かすだけで包丁の抜け防止と包丁の出し入れの容易さの両方を実現することができる。

## 【 0 0 1 0 】

また、係止部材の材料も従来より格段に少なくすむため、コスト高という課題も解決できるものである。

## 【 0 0 1 1 】

## 【 発 明 の 実 施 の 形 態 】

本発明は、傾斜状の複数の差し込み口を頂面に有する収納本体と、前記収納本体の頂面後部に左右移動可能に設けられた所定高さの係止部材とを具備し、この係止部材の前部には前記複数の差し込み口と対応して複数の凹設部を形成し、かつこれら凹設部は、係止部材が一方へ移動している状態では差し込み口を全開するとともに、凹設内面が差し込み口の傾斜と一致するように傾斜状に部分的に設定されており、さらに係止部材が他方へ移動している状態では、この係止部材の前部が差し込み口の一部を塞ぐように設定した。

## 【 0 0 1 2 】

10

20

30

40

50

従って、包丁を上部の差し込み口から収納本体に差し込んだ後、係止部材を少し移動させれば包丁の舌片部を保持固定できるので、幼児等が誤って包丁を収納装置から取り出すことを防止できる。

【0013】

好ましくは、係止部材の移動を係止するロック機構を設け、係止部材で包丁の舌片部を保持固定した状態をロックするようにしておく。

【0014】

他の実施の形態としては、前後方向に形成した差し込み口を頂面の左右方向に複数配設した収納本体と、前記収納本体の左右両端より上方へ突設され、前後方向への長穴状のガイド部をそれぞれ有する突出部と、前記ガイド部にガイドされて前後移動し、前記差し込み口の上方位置と退避位置に操作される線材とからなるものでもよい。

10

【0015】

以下、本発明の実施例について図面を用いて説明する。

【0016】

(実施例1)

図1は本発明の実施例1の包丁がロックされた状態の包丁収納装置の外観図である。また、図2は同包丁収納装置の外観図である。図3は同包丁収納装置の要部断面図、図4は同収納装置のロック機構の平面図、図5は図4のイ-イ断面図である。

【0017】

図1～図4において、10は包丁を収納する収納本体で、本体部10dと開閉自在な蓋部10eとからなり、通常は扉裏面に取りつけて使用する。

20

【0018】

収納本体10の上には包丁を挿入する差し込み口10aを設けている。11は収納本体10の後部上面に設けた係止部材で、図3に示す如くその下部に設けた凹部11bで収納本体10の上面に嵌合された状態で左右に移動可能となっている。さらに、係止部材11は、その前面を収納本体の差し込み口10aの形状にあわせて凹設させ、その凹設部11aは包丁挿入時のガイドとなしている。

【0019】

10bは係止部材11をロックするロック機構で、図4に示す如く収納本体10の上面に周囲に溝10cを介して設けられており、材料のバネ性を利用して上下方向に変形可能となしている。

30

【0020】

次に動作、作用について説明すると、図2の状態から収納本体10の差し込み口10aに、刃先を扉側に向け、係止部材11の凹設部11aに沿わせて包丁Yを挿入し、係止部材11をA方向にスライドさせると図1に示すように差し込み口10aの略半分が係止部材11によって覆われる。これにより、包丁Yは舌片部が係止部材11によって係止され、柄を持って上方に引き抜こうとしても係止部材11に当たり、抜けなくなる。また、係止部材11のA方向へのスライドによって、同時に、バネ性を利用したロック機構10bが図1に示すように上方に変形し、係止部材11を係止するので、係止部材11がA方向と逆の方向に移動することを防止する。

40

【0021】

なお、包丁Yを装置から取り出すときは、ロック機構10bをC方向に押してロックを解除し、係止部材11をB方向に押して、差し込み口10aが完全に見えるようにすると、包丁が取り出せる。

【0022】

(実施例2)

図6および図7は本発明の実施例2の包丁収納装置の外観図である。

【0023】

実施例1と異なる点は、実施例1では別体としていた収納本体10と包丁挿入時のガイドを兼ねていた係止部材11とを一体化して収納本体12としてガイド部分に差し込み案

50

内溝 1 2 a を設け、かつ線材をコの字形状に加工した係止部材 1 3 を収納本体 1 2 の左右の側壁に設けたガイド部となるガイド溝 1 3 a に係合させ、さらに、ガイド溝 1 3 a の先端に前記係止部材 1 3 を保持固定して容易に外れないようにするストッパ部 1 3 b を設けたところである。

【 0 0 2 4 】

次に動作、作用について説明すると、包丁を使用する調理作業時には、図 6 に示すごとく、線材でできた係止部材 1 3 は収納本体 1 2 のガイド部上部にあり、包丁 Y は出し入れ自由である。包丁 Y を保持固定したいときには、包丁 Y を差し込み口 1 0 a に挿入した後、係止部材 1 3 をガイド溝 1 3 a に沿って差し込み口 1 0 a まで移動させる。

【 0 0 2 5 】

その時、係止部材 1 3 はストッパ部 1 3 b を越えてガイド溝 1 3 a より先端まで移動させることが必要である。そうすることにより、包丁 Y の舌片部が係止部材 1 3 に当たり、包丁が抜けなくなる。

【 0 0 2 6 】

(実施例 3)

図 8 は本発明の実施例 3 の包丁収納装置の外観図である。

【 0 0 2 7 】

実施例 1 と異なる点は、収納本体 1 4 上部の左右両端に突出部 1 4 a を設け、突出部 1 4 a にはロック機構となる複数の凹凸を有するガイド部となる長穴 1 4 b を設け、この長穴 1 4 b に係合して前後に移動可能なコの字形状の線材よりなる係止部材 1 5 を有するところである。

【 0 0 2 8 】

次に動作、作用について説明すると、包丁を使用する調理作業時には、図 8 の実践で示すごとく、線材でできた係止部材 1 5 は収納本体 1 4 の長穴 1 4 b の後部にあり、包丁 Y は出し入れ自由である。包丁 Y を保持固定したいときには、包丁 Y を差し込み口 1 0 a に挿入した後、一点鎖線で示すように係止部材 1 5 を長穴 1 4 b に沿って前方に移動させる。

【 0 0 2 9 】

この状態で、包丁 Y を上方に引き抜こうとしても長穴 1 4 b の凹凸によって係止部材 1 5 は前後方向に移動できないので、包丁 Y の舌片部が係止部材 1 5 に当たり、包丁が抜けない。

【 0 0 3 0 】

【発明の効果】

以上のように本発明によれば、包丁の出し入れを容易とし、かつ、幼児等が誤って包丁を取り出すことを防止できるという安全面でも優れたものを提供できるものである。

【 0 0 3 1 】

さらに、係止部材の材料も少なくすむので、経済的にも有利である。

【図面の簡単な説明】

【図 1】 本発明の実施例 1 の包丁ロック状態の包丁収納装置の外観図

【図 2】 同実施例 1 の包丁収納装置の外観図

【図 3】 同実施例 1 の包丁収納装置の要部断面図

【図 4】 同実施例 1 のロック機構の平面図

【図 5】 図 4 のイ - イ 断面図

【図 6】 本発明の実施例 2 の包丁収納装置の外観図

【図 7】 同実施例 2 の包丁ロック状態の包丁収納装置の外観図

【図 8】 本発明の実施例 3 の包丁収納装置の外観図

【図 9】 従来の包丁収納装置の外観図

【図 10】 従来の包丁収納装置の外観図

【符号の説明】

1 0 収納本体

10

20

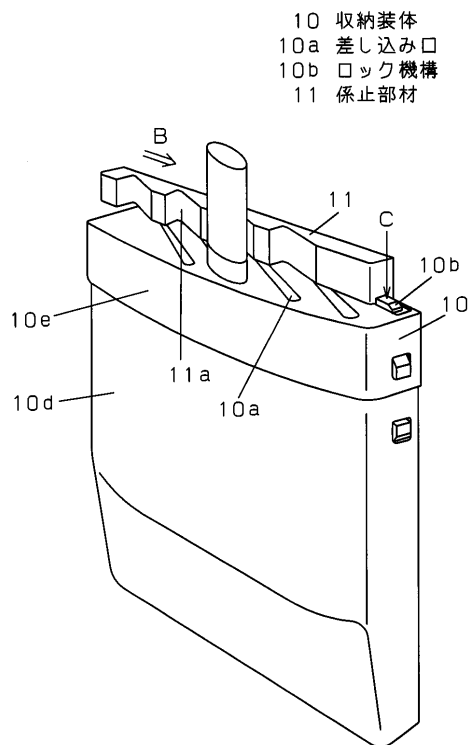
30

40

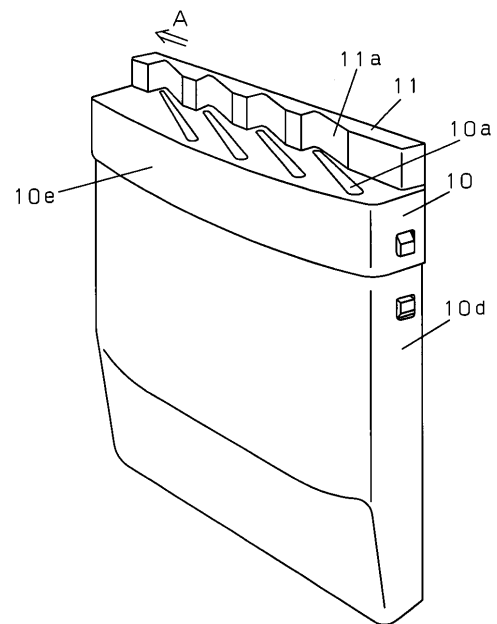
50

- 10 a 差し込み口
- 10 b ロック機構
- 11 係止部材
- 12 収納本体
- 12 a ガイド溝
- 12 b ストッパー
- 13 係止部材
- 14 収納本体
- 14 a 突出部
- 14 b 長穴
- 15 係止部材

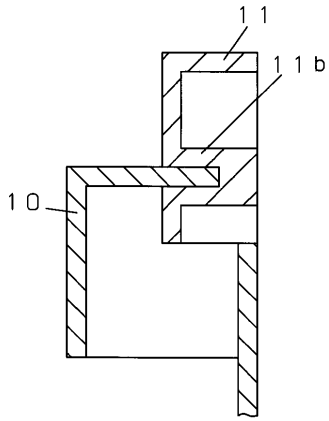
【図1】



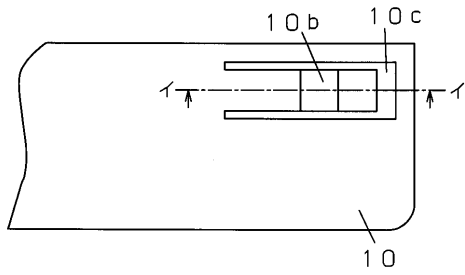
【図2】



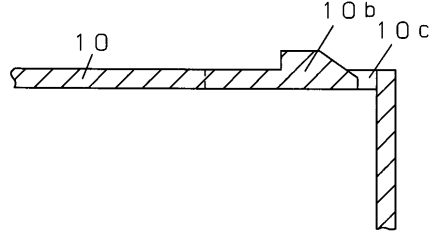
【 図 3 】



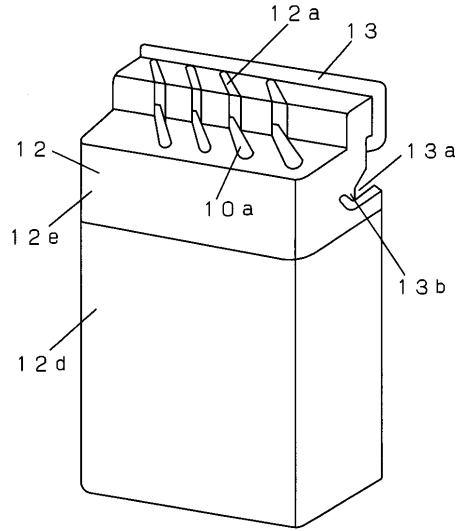
【 図 4 】



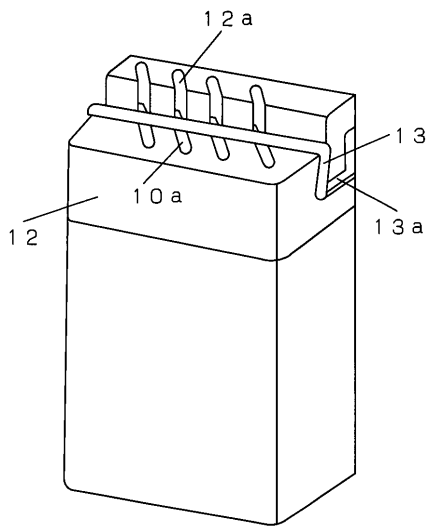
【 図 5 】



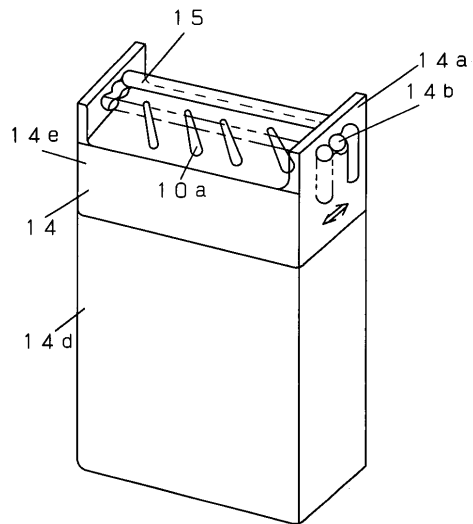
【 図 6 】



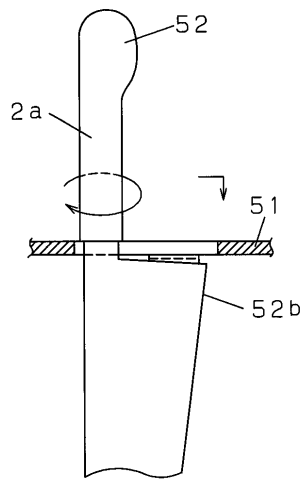
【 図 7 】



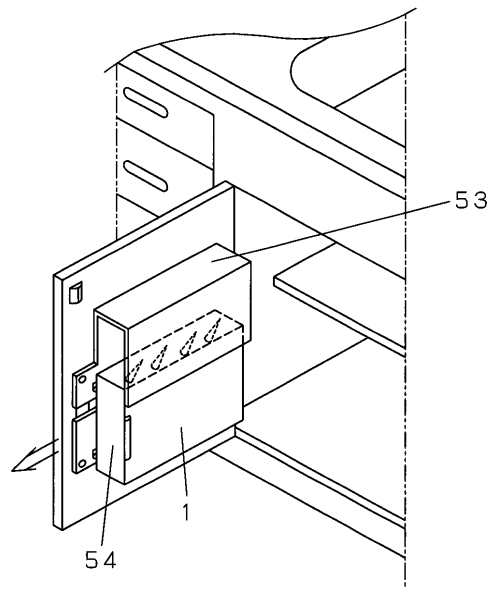
【 図 8 】



【図 9】



【図 10】



---

フロントページの続き

審査官 豊島 唯

- (56)参考文献 実開平07-020149(JP,U)  
実開昭54-126839(JP,U)  
実開昭49-013250(JP,U)  
実開昭52-075548(JP,U)  
実開平04-003644(JP,U)

(58)調査した分野(Int.Cl.,DB名)

A47J 47/16

A47B 77/14